



上：本郷弦氏の絵本朗読の収録

下：どんぐりクラブの子どもたち



絵本DVD「ノーモア・ヒバクシャの願い」作成進む

札幌市のボランティア基金の助成も受けて作成が進められているDVD「ノーモア・ヒバクシャの願い」、絵本の朗読の収録も終わり順調に作成作業が進んでいます。近く改めてご案内します。



再び戦争への道を歩むなー札幌平和行動

78年目の「終戦」記念日。時折強風の吹く中、平和婦人会など実行委員会は、JR札幌駅南口広場で戦前の「赤紙（臨時召集令状）」を配り街頭宣伝行動。被爆者の金子廣子さんも自身の被爆体験を語り再び戦争への道を歩むなと訴えました。戦争できる国へとひた走る日本、それぞれ弁士の訴えが重く響きました。

学びの夏 高校生・中学生の取り組み

いつになく暑かった夏。そのさ中、高校生や中学生の熱心な学習の姿が目立ちました。

東北北海道地区の高校YWC Aの皆さんが、8月1日、フィールドワークでノーモアヒバクシャ会館を訪れました。

幼い頃に被爆した工藤朱実さんが語った話が心に深く残ったようです。遺品の数々や写真、展示にもショックを受け、自分や家族だったらと考えると言葉を失ったという感想も。（写真右）

主催者から「被爆証言や会館訪問を通して、原爆とは、戦争とは、平和とはと考える機会を得られたことは、若い彼らのこれからの歩みに大きな意味があると思えました」とお便りが届いています。

8月23日は北星学園余市高校の皆さんが来館（写真中）。被爆者宮本須美子さんの話を聴き、会館の成り立ち、展示品の説明を受けました。その後「北海道に被爆者が多いのはなぜ」



など改めていくつかの質問が寄せられ、文書で回答しました。5日には札幌市のある中学校の社会科学研究部の皆さんが見学と学習。ドキュメンタリー「にんげんをかえせ」をみた後展示室へ。「これらの展示を世界中の人にみてほしい」「原爆は怖いと逃げていたが」後世に伝えるためにもっと資料や情報を集めたい」と感想を書いています。（写真左）

この他家族連れで訪れる子どもたちが何組もありました。

◆ ◆ ◆
コープさっぽろ組合員活動委員会札幌西地区の皆さんの感想から（7/14来館）
…これは現実にあつたことなのですね。目を背けることなく、しっかりと受け止めて次世代へ語り継がなければなりませんね。

…会館が設立当初の目的とは変わって、語らいの場から平和の願いを発信する場へと変化していることを知りました。宮本さんのお話もお聞きし、被爆したことや当時のことは忘れないと思っているが「語らなければならぬ辛い」と「語らなければならぬ責任」の想いでお話されているのだと感慨深かったです。